

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5813	学校名	飛騨高山高等学校（通信制）
------	------	-----	---------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する通信制高校として 一人一人に寄り添った「気長・丁寧・親切」な支援を通して 社会において自走できる人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	「快活」「友愛」「創造」を校訓のもと、あらゆる機会を捉えて『自走できる生徒』を育成するとともに、価値観の多様性を認めて『互いを尊重できる生徒』を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒</li> <li>互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒</li> <li>郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進</li> <li>「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成</li> <li>生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒</li> <li>自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒</li> <li>生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校経験のある生徒やいろいろな困り感のある生徒が多く在籍し、学習支援に限らず、さまざまな支援を必要としている。</li> <li>自己肯定感が低く、特にコミュニケーションを苦手としている生徒が多い。</li> <li>在籍生徒のほとんどが10代であり、キャリアプランニングの支援が必要である。</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「気長・丁寧・親切」を指導のモットーに、基礎基本を大切に、社会人として必要な一般教養を身に付けさせます。</li> <li>個に応じた支援の充実を図り、自己肯定感を高めさせることによって自ら学ぶ意欲や態度を育てます。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努めます。</li> <li>自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努めます。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい勤労観・職業観を身に付けさせて、社会的自立を目指します。</li> <li>主体的に進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指します。</li> </ul>

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	添削指導（レポート）の内容を見直し、取り組みやすい内容に改善します。評価基準を明確にし、丁寧な添削に努めます。	施策IV-23	①生徒及び保護者を対象とするアンケート ②生徒による授業評価アンケート ③スクーリング出席率、単位修得率 ④該当生徒及び所属校へのアンケート
	面接指導（スクーリング）や学習会を活用し、学習に困難を抱える生徒に対してコミュニケーションを大切にし、粘り強く支援します。	施策IV-23	
	わかりやすい言葉での指導やICTの積極的な活用によって生徒が主体となって活動できるように、面接指導の改善に努めます。	施策II-9	
	通級指導により、コミュニケーションに困難を抱える生徒に対して生活自立に向けた支援を行います。	施策IV-21	
生徒指導	生徒の実態把握のための各種アンケートの実施・分析を行うと共に、懇談を随時実施し、学級担任を中心に保護者や教科担任・特別支援コーディネーターと連携して、生活及び学習の支援に努めます	施策I-3	①心のアンケート・いじめアンケート・生徒及び保護者を対象とするアンケートの実施と結果分析 ②学校行事・生徒会活動の参加率及び部活動加入者数及び活動状況・大会成績 ③職員会議・職員室での職員間の情報共有
	生徒の主体性の伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導・支援に努めます。	施策I-5	
	良好な対人関係の構築や社会性を育むために、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、職員間での情報共有を徹底します。	施策I-1	
進路指導	進路ガイダンス及び進路説明会を実施して、生徒及び保護者の進路意識を高めます。	施策II-13	①生徒及び保護者を対象とするアンケート・就業調査 ②進路希望調査 ③進路先決定状況 ④職業適性検査、外部模試
	面接指導（スクーリング）及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供します。	施策IV-23	
	随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など卒業後の進路を見据えた指導を個に応じた実施します。	施策I-7	
	職業適性検査を実施し、職業に対する意識付けを行うとともに外部模試等を実施し、学習状況を把握するための支援を行います。	施策II-8	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月30日

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内容、レポート内容、面接指導の精選と充実、面接指導だからできる学びを更新していく。</li> <li>・本課程は基本的に「自学自習」であることを周知しながら、個々に合った学習計画を立て、実施できるよう、気長・丁寧・親切な支援と指導を行う。</li> <li>・レポートの配布や提出、個別の学習支援などにデジタル技術を活用して、できるだけ生徒の利便性を高められるようにしたい。</li> <li>・個別の特別な支援が必要な生徒には、スクーリング時には支援員と連携し、必要であれば平日にも支援を行う。また、SCとのカウンセリングを行うなどし、必要であれば外部機関と連携した支援を行えるような体制を維持する。また、特別支援教育コーディネーターを中心に保護者や外部機関との連携を図り、相談機関の紹介や卒業後も利用できる事業所を紹介し、自立につなげる。</li> <li>・生徒のほとんどが10代であり、卒業後の進路を考える機会や進路決定までの支援がこれまで以上に重要である。インターンシップや企業見学会を企画し、通信制でもできるキャリア教育を推進していく。</li> </ul>
---

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<p>生徒の実態に合わせて各教科でレポート内容を見直した。生徒の学力に応じて、レポート添削時の記載内容を変化させ、各々にとって分かりやすく満足する添削となるよう努めた。</p> <p>面接指導では、ほぼすべての教科でICTを活用し見やすく分かりやすい説明を心がけた。一斉スクーリングだけでは支援が不十分な生徒には、平日に個別スクーリングを行い、個々の状況に合わせた支援を厚く行った。</p> <p>生徒たちの自己理解が深まり、他者に対して自己開示ができるようになることを目指して指導を行っている。通級による指導がコミュニケーションに苦手感をもつ生徒同士の交流の場となり、アドバイスをしたり聞いたりする姿も見られている。</p>	B	<p>【成果】</p> <p>デジタルでのレポート提出は、昨年度よりも利用生徒数が増え、以前よりも期限直前まで粘り強くレポート作成に励む生徒が増えた。通級指導ではグループワークを通して生徒が相互に意見を交わし合う機会をつくることができた。また、通級での会話や雑談によって視野が広がったという感想も得ている。</p> <p>【課題】</p> <p>生徒が主体となって活動する面接指導は、多くの教科で課題が残った。少ない登校日数で生徒が有効的に学習するためにはどうすれば良いか興味改善したい。通級指導では、心理的安全性の確保に努めて生徒の自発性を引き出すことや、高校籍の教員での運営も見据えた計画や引継ぎをしていきたい。</p>	
<p>心のアンケートの回答からいじめ案件を認知した。担任・生徒指導主事・管理職で確認したり協議したりしながら対応した。</p> <p>生活体験発表会や文化祭において生徒会が役割を担い、活動することができた。卓球部が全国大会出場（個人）、東海大会優勝（団体）など意欲的に活動することができた。</p> <p>SCによる講話を計画したり、高山校外研修では課題を設定したりして生徒間の交流が深まるようにした。気になる生徒の様子は職員室で話題にして情報共有した。</p> <p>行事参加率 球技大会73% 文化祭69% 遠足51%</p> <p>卓球部 全国出場 東海団体優勝</p>	B	<p>各種アンケートのメール配信は登校日数が限られている通信制にとって生徒の思いを拾うよい機会である。また、学校行事に積極的に参加できる生徒は互いに関係性を築き、仲間との交流を通して自己肯定感や自己有用感を高められるよい機会となっている。</p> <p>不登校経験のある生徒たちにとって、より充実した学校生活となるようにしたい。しかし、一定数はスクーリングに登校せずアンケートも回答しない状況が続く。そのような生徒の心情を掴むことは簡単ではない。</p> <p>通信制は職員数が限られているが、その分情報共有がしやすい。普段から職員室で情報交換を行えるのは生徒を指導・支援する上で有効である。今後も活発な情報交換が行える雰囲気を作りたい。</p>	B
<p>進路ガイダンス4/20 保護者進路説明会5/25</p> <p>職業適性検査6/2 ベネッセ模試</p> <p>卒業予定者24名に対して（R8/1/14現在）</p> <p>新規就業（高校を通しての就職）4名</p> <p>進学 四大4名 専門等7名</p> <p>個別の進路支援、面接練習などを実施</p> <p>インターンシップ 1名</p>	B	<p>進路説明会及び進路ガイダンスを実施し、生徒、保護者に有益な情報を提供することができた。</p> <p>卒業予定者対象に、面接練習、志望理由書や履歴書の添削指導、個別面談等を実施した。卒業予定者には、年度当初から目標をもって積極的に行動する生徒もいれば、なかなか受験先を決めることのできない生徒までさまざまあり、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒に対して、具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。</p> <p>今年度、インターンシップ体験者が1名であった。通信制に在籍する生徒には、在学中アルバイト等の就業経験がある生徒もいれば、働くことに対してイメージを持てなかったり、働くことに躊躇してしまう生徒もおり、「働くこと」を中心としたキャリア教育の必要性がある。</p>	

学校関係者評価

実施日：令和8年1月30日

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で課題をやることは大事なことであり、いろいろ抱えて通信制を選択した生徒でも、高校を卒業したいという思いの生徒が多いであろう。継続して学びが続けられるようサポートしてほしい。</li> <li>・外に出られない生徒が通信制を卒業して、社会との関わりをもつことが出来るところはどこにあるのか。そのような場所があることを知らせること、見守ってくれる方とつなぐことが出来たらいい。</li> <li>・学ぶ理由がわからないと学びに向かえない、学びのモチベーションとならない。学びのつながり、意味合いを提示することで学びに向かうことが出来る。それは時間がかかってもいい。ぜひ、学びの後何が出来るようになるのか説明してほしい。</li> <li>・25名のうち進路に決定の生徒がいるが、通信制でも社会とのつながる機会があるといい。</li> <li>・繊細でメンタルが難しい生徒が多く、限られた登校日数の中、ここにあった声かけ指導をしていただき感謝しています。</li> <li>・進路が少しでも広がるような資格取得の機会やアドバイスがあるといい。</li> </ul>
--